

ウチナタイム!

No.66

9月

2021年

クマノミデザイン

オキナワをもうちょっと知りたくなる WEBマガジン



クニジャンサバクイ

NEO Cojaco



ウチナタイム!

No.66

9月

2021年

新良幸人×サトウユウ子

今年発売10周年を迎えた、
新良幸人×サトウユウ子による名盤『浄夜』。
スペシャルライブツアー《浄夜 旅》
スペシャルなひとときを



オキナワをもうちょっと知りたくなる フリーペーパー

クマノミデザイン



連載

<p>沖縄 ビーチ 巡礼</p> <p>富山義則 フォトグラファー</p>	<p>また、 ヤルが 笑っている。</p> <p>大城密</p>	<p>空飛ぶあっちゃんの 自由発想沖縄料理</p> <p>沖縄料理研究家 高山 厚子</p>
<p>たるー</p> <p>島唄 コラム 関洋</p>	<p>ちんだみ日和</p> <p>田所ヨシユキ</p>	<p>ナゴラブ 名護を楽しむ情報サイト</p>
<p>世界は 泡盛で うまいく</p> <p>岡山進矢</p> <p>泡盛新聞東京支部長 泡盛トリコロール主筆</p>	<p>「描きたいもの」は、沖縄の自然、生き物。</p> <p>シーサー玉城ギャラリー</p>	<p>information & present</p>

ツアー詳細はこちらをクリックしてください。(拡大ページへ移動します)

新良幸人×サトウユウ子 《浄夜 旅》

今年発売10周年を迎えた、新良幸人×サトウユウ子による名盤『浄夜』。
10月23日(土)桜坂劇場にて、「10th Anniversaryライブ」が開催されます。
さらに翌日10月24日(日)には、『浄夜』が録音されたスタジオ「Tutti」での
スペシャルライブツアー《浄夜 旅》※ツアー限定40名様を企画致しました。
旅する浄夜の里帰り。レコーディングスタジオ独特の空気感、
ログハウスのぬくもり溢れる極上でスペシャルなひとときをご堪能ください。

ジャパン・エンターテインメント・ツアーズ企画
『浄夜 旅』詳細/申込フォーム
※旅行詳細はツアーパンフレットからご確認ください。

<http://www.jetours.jp/tour/jouyatour/form.html>

Cover



新良幸人(あらゆきと)

1967年沖縄県石垣市白保生まれ。11歳から八重山民謡を父親(新良幸永)に師事。17歳で八重山古典音楽コンクールで最高賞を受賞。18歳より大学進学のため石垣を離れ現在も那覇在住である。現在はパーシャクラブやアコースティック・パーシャのヴォーカル&三弦奏者として、また同じパーシャクラブの太鼓、仲宗根哲(サンデー)と2人での活動も平行して行う。シングル「ファミレウタ」はTBS系「筑紫哲也ニュース23」のエンディング曲に起用。2003年11月にはソロアルバム「月虹(げっこう)」を発表。2011年10月にはティ・チク・タクミニートよりピアニスト・サトウユウ子とのコラボレーションアルバム『浄夜』をリリース。モントリオール国際映画祭で2冠を受賞した映画『カラカラ』(2013年1月 全国公開)で音楽監督を担当。その他、下地イサムとのユニット・THE SAKISHIMA meetingや角松敏生、coba、夏川りみ、犬山イヌコ等のアルバムにも参加しその活躍も多方面に広がっている。

サトウユウ子(ピアニスト/画家)

福岡県生まれ。
幼少期からピアニストの母よりピアノを教わる。
国立音楽大学在学中、早稲田大学モダンジャズ研究会(通称ダンモ)に所属。
その後武蔵野美術学園にて美術を学び1997年沖縄に移住。
2011年にટેイテクレコにて新良幸人とデュオアルバム『浄夜』をリリース。
2015年にタブピーツから比屋定篤子とデュオアルバム『RYUKYU STANDARD』をリリース。
新良幸人、比屋定篤子、下地イサム、内田勤太郎、EPOをはじめ、県内外のアーティストとのレコーディングやライブサポート、また琉球演劇の音楽を作曲するなど、沖縄を拠点にピアニスト、画家として活動している。

個展

2000年 那覇市民ギャラリー(沖縄)
2001年 「INNER LIFE」TOR GALLERY(神戸)
2002年 「INNER LIFE」銀座小野画廊(東京)
2003年 「INNER LIFE」前島アートセンター(沖縄)
2005年 「INNER LIFE」ギャラリーラファイエット(沖縄)
2006年 「INNER LIFE」ギャラリー椿(東京)

グループ展

2000年 第5回昭和シェル石油現代美術展(目黒区美術館/東京)
2001年 第4回川の絵画大賞展(加古川市総合文化センター/兵庫)
第7回現代美術小品展(銀座小野画廊/東京)
2002年 第8回現代美術小品展(銀座小野画廊/東京)
代官山アートフェア2003(ヒルサイド・フォーラム/東京)
2004年 前島ライブラリ&ショップvol.3(前島アートセンター/沖縄)

受賞

1992年 第11回ホクストン装飾デザインコンクール佳作入賞
2004年 第19回ホルベインズカラシップ奨学者認定
(パイプックコレクション)
ハイアットリージェンシー那覇
那覇空港JALサクララウンジ
ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄



浄夜 新良幸人×サトウユウ子

八重山古典民謡の眼者、新良幸人のソロ・プロジェクトによるアルバム。沖縄在住のジャズ・ピアニスト、サトウユウ子とのコラボレート作品で、新良の唄と三線、サトウのピアノをベースに、流行に左右されない普遍的なサウンドを構築している。「浄夜(じょうや)」など、美しく荘厳な世界観を持つナンバーを多数収録。

沖縄ビーチ巡礼 第6回「石垣島の船遊び」

写真・文 富山義則/フォトグラファー



とみやまよしのり

1953年生まれ。フリーランスフォトグラファーとして出版を中心に数々の仕事をこなしながら、自然や歴史をテーマに数多くの写真展を催している。1970年代から90年代にかけて人気を博したカウンターカルチャーを代表する「別冊宝島」の表紙や「田舎暮らしの本」などを手がけ、2016年には、2008年に生産が中止となった期限切れのポラロイドフィルムを使った写真集を出版するなど、この斬新な試みも注目される。



久宇良サンセットビーチ

沖縄にはサンセットビーチがいくつもあがるが、久宇良の海は自然のままの手つかずの海。隣の浜にはアサ探りのオジヤオバアが現れる暮らしに根付いた浜でもある。

コロナ感染症のためすぐに遊びに行くのはためらわれるが、沖縄離島の中でも石垣島は人気が高い島の一つである。コロナ前の8月や9月はホテルの予約が取れないこともあるぐらい観光客が押し寄せていた。都市化された沖縄本島よりも、まだまだ八重山の情緒が残る石垣島に魅力を感じる観光客の気持ちも判らないではない。他の離島に比べてみると、ここには山と海と両方の風景があり楽しめる。これも人気の一つであるに違いない。

石垣島のビーチを写真を取りながら歩いているといろいろ不思議な人に出会う。防風林の中を声を上げながら何かを追い回す二人組。海岸の貝を拾い集めてる人たちが何人もいる。もちろん商売のためだ。アイディア次第で良い商売になるのだと言う。海辺の岩場に張り付いて、海草を採っているオジヤオバアはそれぞれ十人もいる。御嶽を掃除する老夫婦等々。年配の方から、ときどき声をかけられたりすることもある。

「写真撮影ですか。どちらから来たんですか」

東京からと答えと、

「自分も住んでたことありますよ」

懐かしそうに昔話を始める。声をかけてくるのは、本土で働いた経験のある人が多いようだ。彼らから得る情報も多く、面白いので時間の許す限り話を聞くことにしている。

ぼくを見て、カメラぶら下げたひげ面の色の黒い変な奴だと思っているに違いない。それで声をかけられるのかも知れない。彼らの話は石垣島の自然や文化を教えてくれるので聞き逃すわけにはいかない。時には命に関わるような情報を聞くこともある。例えば島の東海岸と西海岸では潮の流れが違うという。もし泳ぐ目的でビーチに行きたいなら西海岸の方が安全できれいなのでお勧めだそう。だが東海岸は海の色も良くないうえに、潮の流れがはやいので遊泳は要注意とのことだった。

ぼくは40年ほど前にセイロン島、現在のスリランカで初めて挑戦したダイビングで、怖い思いをしてからというもの、海の中には興味が無くなった。ひたすらビーチでちびちび島酒やビールを飲みながら海を眺めている。だから溺れる心配はないが、石垣島の美しい海で遊泳をしたいなら覚えておいて損はない情報だ。



「川平湾」
海の色を見れば観光客に人気なのもよく分かる。太陽の位置によって海の色も変化する。



「山原の隠れがビーチ」
移住者に人気のエリアにあるイチヤンダビーチ。



「ターミナル」
石垣島は八重山諸島の玄関口。毎日離島ターミナルから高速船が入り出している。以前は最終便で石垣島に着いた離島の若者がベンチで仮眠していることもあった。



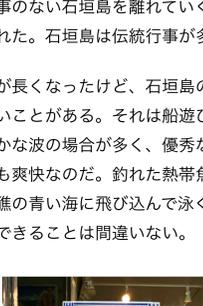
「トレーラーハウス」
土地を借りてトレーラーハウスに住む移住者もいる。

さて、石垣島の魅力の一つめは離島ターミナル(旧離島桟橋)から八重山の各離島へ気軽に遊びにいけることだ。二つめは新空港ができて東京からの直行便が飛んで来るようになり一気に便利になったことだ。そこに移住者の求める宅地やアパートも必要になったのである。県道沿いの土地が人気になり土地の価格が上がるのはアツという間だった。三つめはスギ花粉が飛んでこない。

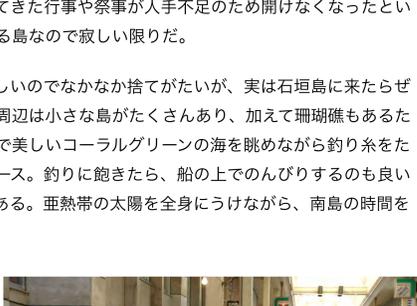
そんなこともあり、現在の石垣島は他県からの移住者が急増している。特に東北、北海道からの移住者は温暖な気候に憧れているようでこのほかに多い。その数は二千人とも三千人とも言われている。ミニバブルと呼ばれる現象が起きているのは島の不動産である。賃貸物件つまり、貸家やアパートが不足している。同様に土地の売買も売り手市場になっている。ただでさえ島の宅地は農振法がかぶせられているために少ない。

特に人気があるのは川平湾からも近いクリスタルビーチ(山原ビーチ)の集落である。目の前に海がひらけ、背後には山もある。実に石垣島らしい風景の場所だ。ここには移住者達が集まってきており、いろいろなカフェやレストランがオープンし、人気のスポットになっている。この地区を担当していた不動産会社の営業マンは月給が歩合ということもあり、二百万円をこえる時もあると豪語していた。もちろん石垣市内も人気がある。その一方で、地元の人達は仕事のない石垣島を離れていく。昔から伝わってきた行事や祭事が人手不足のため開けなくなったという話も聞かされた。石垣島は伝統行事が多いことで知られる島なので寂しい限りだ。

さて前置きが長くなったけど、石垣島のビーチ遊びも楽しいのでなかなか捨てがたいが、実は石垣島に来たらぜひお勧めしたいことがある。それは船遊びなのだ。石垣島周辺は小さな島がたくさんあり、加えて珊瑚礁もあるため比較的穏やかな波の場合が多く、優秀な釣りガイドの船で美しいコーラルグリーンの海を眺めながら釣り糸をたれるのはとても爽快なのだ。釣れた熱帯魚はもちろんリリース。釣りに飽きたら、船の上でのんびりするのもしものだ。珊瑚礁の青い海に飛び込んで泳ぐのもまた良しである。亜熱帯の太陽を全身にうけながら、南島の時間を思う存分堪能できることは間違いない。

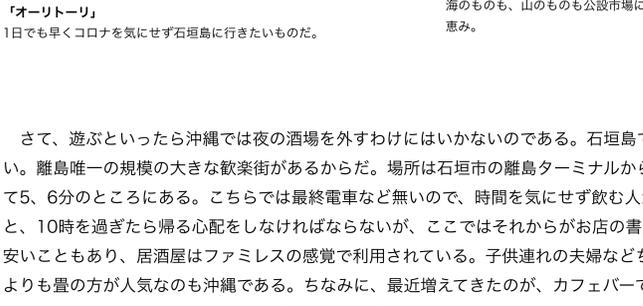


「オーリトリ」
1日でも早くコロナを気にせず石垣島に行きたいものだ。



「公設市場」
海のものも、山のものも公設市場に並んでいる。島の食材は豊かな自然の恵み。

さて、遊ぶといったら沖縄では夜の酒場を外すわけにはいかないのである。石垣島では美崎町を抜きには語れない。離島唯一の規模の大きな歓楽街があるからだ。場所は石垣市の離島ターミナルから市役所に向かって歩いて5、6分のところにある。こちらでは最終電車など無いので、時間を気にせず飲む人が大半である。東京だと、10時を過ぎたら帰る心配をしなければならぬが、ここではそれからお店の書入れ時になるのだ。飲み代も安いこともあり、居酒屋はファミレスの感覚で利用されている。子供連れの夫婦などちょっと珍しくはない。椅子よりも畳の方が人気なのも沖縄である。ちなみに、最近増えてきたのが、カフェバーである。観光客が増えてきたこともあるだろう。若い移住者が経営している場合が多く、おしゃれな内装の店やアジアチックな店などさまざまなスタイルのバーが集まっている。石垣に来たらぜひ、夜は離島ターミナル周辺のバーを渡り歩いて下さい。亜熱帯の夜風が気持ち良いはずですよ。



「石垣港の夕陽」
島で見る東シナ海に沈む雄大な夕陽は格別だ。



「網取湾」
石垣港から出発した釣船シーファイターは見せたい光景があるからと西表島の網取湾の美しい珊瑚礁まで連れて来てくれた。



「釣船シーファイター」
彼らが島の楽しみは船遊びだと教えてくれた。小さな釣り船で島を巡っているとアツという間に時間が経ってしまう。

バックナンバーはこちらへ

編集長宮里英克オフィシャルサイト

<http://miyazatohidekatsu.com>

ホームへ戻る

さあ、はじめましょう!



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

概要 | プライバシーポリシー | Cookieポリシー | サイトマップ

ログイン

また、やーるーが笑っている。

大城密/作家



沖縄をテーマとした3分で読める読み切り超短編小説シリーズ。

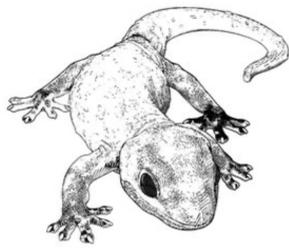
大城密（おおしろひそか）

沖縄県出身、東京在住。エブリスタの「スマホ小説大賞2014」にて角川ホラー文庫賞を受賞。

『下町アパートのふしぎ管理人』シリーズでデビュー。その他、チャット小説アプリ『peep』、DMMノベルアプリ、『TELLER』のライター。ゲームシナリオライター。

第47話 『ワシミルク』

冷蔵庫の奥の方に宝物がある。
 母親が出かけたのを確認しテレビの前から冷蔵庫の前へと移動する。
 宝物の前にあるのはケチャップや瓶入りのマヨネーズ。それらの奥に見える白い缶。
 白い缶の上にはラップがされており、さらにラップが剥がれないように輪ゴムで止めてある。その白い缶を手取る。
 キンキンに冷えた缶の温度が指先へ伝わる。
 その宝物の名前はワシミルク。
 鷲が翼を広げて大空を飛んでいるようなイラストに「Eagle」と大きなロゴが描かれている。
 その頃の僕は鷲が英語でイーグルということも知らず、練乳という言葉を知るのもっと先のこと。もしかしたら当時の沖縄の人間で練乳という言葉を知ってる人間はいなかったかも。いや流石にそれは言い過ぎか。
 そう、ワシミルクは練乳の商品名だ。
 アメリカ文化が日常に行き渡っている沖縄で海外の製品が日常に溢れていた。洗剤やお菓子や調味料やインスタント食品に雑貨に洋服。とにかくたくさんの異国の商品がいつでも手に入った。
 その中でもワシミルクは最高に愛されている商品の一つだ。パンに塗ってもいいし牛乳に溶かしてもいい。
 僕が牛乳は苦手だけどワシミルク入りなら飲める。それは婆ちゃんも一緒だ。
 かき氷にかければ一生食べ続けられそうなくらい美味しい。
 沖縄の子供の中でワシミルクが嫌いな子供に僕は会ったことがない。
 いや、もしかしたらいるのかもしれないけど、きっとその子とは仲良くなれないかもしれない。
 舌を通り越して脳みそを直撃し、そのまま溶かしてしまいそうな甘さ。まるやかな舌触りと柔らかな香り。
 僕はその甘さを想像して口の中が唾液で溢れるのを感じた。先に溶けてしまった脳みそが鼻を伝って落ちてきたみたいだった。
 缶を軽く振ってみる。
 重さの感じから察するとまだ半分以上残っている。
 缶を上から見ると、縁に沿って缶切りで開けた細長い穴が二つ。
 一つは大きくワシミルクが出るところ。もう一つは小さく空気が入るところ。
 そうしないと中身が出ないんだと母さんから教わった。
 開けたままだと乾燥するからラップで封をしてるし、ラップが剥がれないように輪ゴムで止めてある。完璧な保存状態。



だけど冷えたワシミルクは粘度が上がりすぐには出てこない。だけどそれがいい。
 冷蔵庫の中には紙パックの牛乳。そして背後にある食卓には八枚切りの食パンが三枚ある。
 しかしそのどちらにも手をつけない。
 もちろん冷凍庫の氷を削ってかき氷になんてしない。できない。やる必要がない。
 輪ゴムを外しラップを剥がすと、僕はワシミルクの缶を顔より高く掲げて斜めにした。
 缶の内側を徐々に伝う感覚を感じながら、落下地点に口を持っていく。
 これがワシミルクを最高に美味しく感じる食べ方。

何にもつげずにダイレクトに口の中に放り込む。
 これは母親の前ではできない。絶対に叱られる。
 大きめに開いた缶の穴の向こう側から出てくるのを待っている間はとても待ち遠しいが、それに耐えかねて缶を振ると失敗する。
 前に経験済みだ。
 スプーンですくうことも器に移すこともせずに、この直接食べる背徳感を味わう。
 とうとう穴からワシミルク様が姿を見せ始めた。重力に逆らいきれず、粘度のを保ったまま真下へと垂れてきた。
 今まさに落ちてきそうな時、玄関のドアが開いた。
 「車の鍵忘れたあ」
 突然、母親が慌ただしく戻ってきた。同時に外の熱気が室内に入ってくる。
 「あ！」
 慌てて缶を戻すが時すでに遅し。
 僕の口から逸れたワシミルクは服と床を汚した。缶を戻すこともままならず、母親と目が合う。
 「あの、えっと急に倒れてきて……ワシミルクが」
 「嘘つき。あんたそのまま食べようとしていたでしょ！」
 咄嗟の嘘は一秒も見えない間に看破される。本来なら口に入って至福を味わうはずだったワシミルクを布巾で拭き取る。
 「食べたいならパンとかもあるでしょう。変なことしないで！」
 「ごめん」
 母親はよほど急いでいたのか、車の鍵を手にとると説教もほどほど出て行った。
 布巾を軽く洗うと僕は再び冷蔵庫に向いワシミルクの缶を手にとった。
 「やっぱり、これだよな」
 僕は懲りもせず、ワシミルクを再び高く掲げた。

今回は『断水』お楽しみに！



角川文庫

夏、君と運命の恋を
 はずだった

— 元の世界に戻るために必要なのは、(運命の出会い) 時を越えてすれ違う二人に涙する、せつない青春小説 —

ホームへ戻る

バックナンバーはこちらへ
 編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう！



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

ウチな〜タイム!

オキナワをもうちょっと知りたくなる WEBマガジン

No.66
9月
2021年

クマノミデザイン

空飛ぶあっちゃんの

自由発想沖縄料理

～食は笑顔運び心紡ぐ～

高山厚子/沖縄料理研究家

空飛ぶあっちゃんの
自由発想沖縄料理
沖縄料理研究家 高山 厚子



たかやまあつこ

1974年沖縄県旧羽地村（現在名護市）生。名護高校、琉球大学卒。元東京都小学校校長。沖縄料理研究家。修学旅行アドバイザー。執筆、講演活動、料理教室（自宅&出張）等で全国を飛び回る。NHKワールド・あさイチ等テレビ出演多数。琉球大学同窓会関東支部長。著作「緑のカーテンの恵みを食べよう」他。

第36回 貴重品の完熟ゴーヤーを楽しもう（熟してもほっておかないでね）

「完熟ゴーヤーってなあ〜に？」

ホラ、ほっておくと黄色くなって、枝にぶら下がっている、黄色い？いや、オレンジ色のゴーヤーのことだよ。緑から黄色に変わると、皮がむけて種がこぼれ落ちるゴーヤーのことさ。誰も、食べられると思わなかったのよね。沖縄の我が家では、勝手に落ちていたよ。

約18年前に、私が「緑のカーテン運動」の一環として、ゴーヤー料理を開発した時、埼玉の夫の畑で見事な黄色いゴーヤーを見つけ、中を開くと、真っ赤な艶艶した種が。舐めてみると、甘〜い。「あれ、これ、ジュースにしたら？」と、メニューを開発したの。

完熟ゴーヤーを料理に使用始めたのが、おそらく、空飛ぶあっちゃんさんが日本では初めてかな？特許とればよかったね（ウフフ）

お店では売っていないので、私は、「黄金ゴーヤー」と呼んで重宝し、ベランダでは、黄色く熟するまで待っているのよ。（以前にも紹介しています）が、今は、コロナ禍で外にも行けず、ヤグマイ（巣ごもり）生活が続く日々。ベランダに実ったほんの小さな完熟ゴーヤーでママゴト遊びを楽しみました。

早々、葉っぱは飾って楽しみ、てんぷらにして楽しみ、春巻きの内側に巻いて楽しんでまあ〜す。沖縄の青い空に下でぶら下がっているゴーヤー棚を思い出しながらネ。

9月、緑のカーテンがそろそろしまい時期です。赤いゴーヤー見つけたら、「ちょうだい」ともらって楽しんでみてね。



練馬の我が家のベランダで育った完熟ゴーヤー



中の種は、甘い。取り出して水につけると赤い水に。

種は、来年用に残し、赤い水はジュースやゼリー等に利用する。

作り方は、簡単。

- ① 種を取り除き、ミキサーで中の綿も一緒にジュース状にする。
- ② 牛乳とカルピスで味付けし、少々の酢を加えると味が締まる。なお、バナナを1本入れるといい。今回は、ミカン缶の汁と実とバナナを加味。
- ③ 沖縄でよく使用する「アガー・ゼリーの素」+粉寒天で固めています。

緑のゴーヤージュースや寒天もおすすです。



ある日の食卓のハート形完熟ゴーヤーゼリー。ゴーヤーの葉を添えて。



二層にして、ゴーヤーの花も楽しんで。



沢山作って、取り分けでもよし、カップに銘々作ってもよし。



[ホームへ戻る](#)

[バックナンバーはこちらへ](#)
[編集長宮里英克オフィシャルサイト](#)
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう！



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

世界は泡盛でうまいく

VOL.018 岡山進矢/[泡盛新聞東京支部長](#)・[泡盛トリコロール主宰](#)



【新しい泡盛・PRISMA!】

今回は、特定銘柄のご紹介。

デザイナー兼クリエイティブディレクターとしてお仕事させてもらった新商品の、注文受付が開始された。商品名はPRISMA（プリズマ）。

まずお酒の素性を紹介しておく、メーカーは石垣島の「八重泉酒造」。
恐らく泡盛業界では初めてであるラスパニッシュ・オーク樽で貯蔵した、40度新酒だ。
四角い瓶に詰められた300ml、価格は税込み3,740円。（※特典.1）
年間数量限定商品として、八重泉酒造のWEBショップ（※特典.2）と工場直店のみでの販売となる。

このお酒が、これまでの泡盛の楽しみ方のセオリーを一変してくれるくらいすごい。



(写真)

PRISMAという商品名は、私が付けた。

以前このコラムでも書いたが、仕事に取り掛かるにあたり八重泉酒造・座喜味社長と一緒にSNSでライブ配信をしながらの「公開試飲会」を開いた。そのとき試飲した感想が、こうだ。

「味と香りがどんどん変わっていく!!」

濃い琥珀色の液体が器の中でさまざまなカラー（味・香り）に分解され、目まぐるしく状態を変えていくのだ。グラスの形、注いでからの経過時間、温度、差し水の量、スワリング...などのファクターに瞬時に反応し、まるで空にかかる虹のような、プリズムを透過した太陽光のようなカラフルさを、矢継ぎ早に表現してくる。

それだけではない。たったひと口の中でも、含んだとき、口の奥に引っ張ったとき、そして喉に落とした後の印象が全部違う。

そのときの配信を改めて聴き直してみると、試飲を開始して十数分の間にはちみつ、メープルシロップ、ナッツ、チョコレート、ドライフルーツ、りんご、マスカット、バニラ、カラメル...と、10ものフレーバーをこのお酒の中から発掘していた。

その後もこのお酒を器に注いでは新たなカラーを発見し、その度に無限のポテンシャルに驚いている。この「発見」が、このお酒の楽しみ方なのだろう。

太陽光を分解し、さまざまなカラーを出現させる「プリズム」。
そのプリズムをスパニッシュ・オークにちなんでスペイン語読みした「プリズマ」は、このお酒にふさわしい名前だと、我ながら自画自賛したくなる。

泡盛は熟成する酒だ。熟成した泡盛古酒を酒器の中でじっくり愛でると、芳醇な香りがジワジワと立ち昇り“得も言われぬ”幸福をくれる。

古酒とは言えないこのプリズマは、スパニッシュ・オークとの出会いで“エモいと言わざるを得ない”新体験をくれる酒となった。

...えーと、名付け親の私は、上手いこと言うには失敗したようだ。エモいお酒に免じてお許しを。

[八重泉酒造 \[https://yaesen.com\]](https://yaesen.com)

※特典.1：八重泉の3種の樽酒（4合瓶）セットが当たるプレゼントキャンペーン実施！（9/20受付分まで）

※特典.2：10月31日まで「送料無料キャンペーン」あり！（県産品販売促進支援事業）



[ホームへ戻る](#)

[バックナンバーはこちらへ](#)
編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう!



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

シーサー玉城ギャラリー

VOL.03 シーサー玉城 / 画家・歌手・ラジオパーソナリティー

「描きたいもの」は、
沖縄の自然、生き物。

シーサー玉城 ギャラリー



「ゴーヤーの収穫祭」

ジャンル アクリル画

サイズ 原画P 1 0 (530mm×410mm)

制作日 2016年2月

ゴーヤーが実る時、密かにお祭りが行われている。
夏の日差しの下で、「♪やった！やった！ゴーヤーが実った！♪」と
人知れず妖精たちが喜びの舞いを踊っているんだよ。
果実が実る時、命の煌めきをみんなでお祝いしているんだね。

恋をした時など、人生バラ色とはよく言ったもので、嬉しい時や楽しい時、人間の眼には色彩が鮮やかに見えるそうです。

嬉しい時、あたしの目の前には、魚たちが彩ります。
キンギョハナダイ、ハナゴイ、キイロスズメダイ、ルリスズメダイと、
沖縄の海に棲んでいる色とりどりの魚で、喜びを描きました。
ゴーヤーが実った喜びで、魚たちも自然と笑顔になります。

ちなみにこの絵は、2021年5月、サミットストア「夏の沖縄フェア」の広告で、
メインビジュアルとして採用され、関東118店舗の店内を彩りました。

★シーサー玉城プロフィール

沖縄生まれの復帰っ子。関東を中心に活動する沖縄ポップスユニット・イチャリバースのボーカル、イベント司会、川崎FM「琉球リミテッド」のラジオパーソナリティー。そして、2020年の2月に銀座で個展を開催し、画家としての活動も始めた。見るだけで楽しくなる絵を目指し、沖縄の自然の豊かさや命の美しさ、光を描こうと奮闘中。過去には、ダイビングスタッフ、劇団の歌のお姉さん、結婚式の司会、漫才の舞台、ナレーションなどの経歴もある。またラジオ沖縄の「ハイサイ！藤木勇人のヤマトde沖縄タイム！」のアシスタントに2020年10月から返り咲き。

◦主な活動

イチャリバース

沖縄県東風平町出身のスーパー元気歌姫「シーサー玉城」三線と二胡を奏でる宮古島生まれ首里育ち「豊岡マッシー」ワールドBEATな沖縄民謡アレンジとメロディアスなオリジナル三線曲。二胡の叙情的なサウンドから会場が一体となるカチャーシーでイチャリバース（出会えば兄弟）精神で沖縄料理屋から野外イベント、ライブハウスに音楽ホール、ご宴会に結婚式、平和の集いや学校の授業まで。関東を中心にあらゆるところで今日も熱烈ライブ開催中！

画家・シーサー玉城

2014年比嘉美津子氏に師事、2015年たぶろう会初入選、2017年同会新人佳作賞受賞。
2020年2月東京交通会館ゴールドサロンにて「シーサー玉城初個展」を開催し、画家になる。

「描きたいもの」は、沖縄の自然、生き物。

自然の色にはいつも驚かされます。

海に潜って、色とりどりの魚、豊かなサンゴに出会うたびに、なぜこんな色に、こんな形になったのだろう？と生命の不思議とロマンを感じます。命を継ぐために、突然変異を繰り返し進化した結果、奇妙な形、奇跡の極彩色の生命を作りだしました。人間がどんなに想像を巡らし、技術を駆使しても、自然の創造物には勝てない。その美しさを私のフィルターを通して、描きたいと思うのです。

そして、沖縄の光とその彩色をさらに鮮やかにしてくれます。

私にとって、沖縄の光と命たちは、眩しくて心が躍り出してしまう。

なので都会に居ても、心が躍るような嬉しいこと、楽しいことがあった時、目の前に色鮮やかな魚たちが現れ、躍り出すのです。

詳しくは、ホームページをご覧ください。 <https://seasatamaki.fun>

ホームへ戻る

バックナンバーはこちらへ

編集長宮里英克オフィシャルサイト

<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう！



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

ウチタイム!

No.66
9月
2021年

クマノミデザイン

オキナワをもうちょっと知りたくなる WEBマガジン

しりとり絵コラムちんだみ日和 第54回

田所ヨシユキ/民謡歌手・シンガーソングライター・イラストレーター



[ホームへ戻る](#)

[バックナンバーはこちらへ](#)
編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう！



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。